

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300235		
法人名	株式会社 創生事業団		
事業所名	グッドケア・山手(かえて館)		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	令和 5年2 月28 日	評価結果市町村受理日	令和 5年 5月 2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0191300235-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosoCd=0191300235-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ数年はコロナ渦にて外出レクなどは行っていませんが、ホーム内で出来る事を考え四季折々の行事を行い入居者様が穏やかに生活出来る環境作りをし、ご家族様との面会も人数・時間・マスク着用などお約束はありますが、ご家族様との時間をとても楽しまれ、表情も穏やかになれる時間を作っています。ただ今回は12月末に新型コロナウイルスに感染、クラスターとなり入院された方もいらっしゃいましたが無事に退院もされ、ご家族様のご理解・ご協力もあり現在は面会も再開となりました。今後も入居者様が穏やかに過ごして頂けるよう工夫して支援していきたいと思えます。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年3月29日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の人々とのふれあいを大切にし、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを送っていただけるよう支援する」の理念を掲げており、日々の業務で意識して取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っているので、町内会費を払っている。町内会で回ってくる回覧板で情報を共有したり、段ボールなどの資源回収の取り組みに参加して地域とつながりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナウイルス流行の為、町内会も行事を行っていません。今後行動制限が無くなれば町内会の方との取り組みを行っていきたいと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催した際に活動内容や状況などを報告し、参加者からの意見を聞き入れているが、現在はコロナ禍の為、開催が難しい状況となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北広島市の高齢者支援課やグループホーム部会などと電話やメール等でやり取りをして連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けて、毎月目標を設定し翌月にはそれに対する反省・振り返りを行い、拘束とならないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内で定期的に虐待防止に関する研修や勉強会を行い、知識を深めて情報を共有するなどしている。		

グッドケア・山手(かえで館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1階に成年後見人制度を利用している入居者様がおり1階職員との連携にて必要と関係性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やサービス提供の変更などがあれば書面又は電話等で説明や報告を行い、理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催して家族等からの意見を汲み取っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やスタッフ間での話しを聞き、改善点があれば随時反映出来るよう改善。出来なければ再度検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、個人考課表で自己評価を行い管理者と面談を行っている。又職員調査表にて異動希望や総務人事に面談の希望の聞き取りを行い職場環境などの整備に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為、外部の研修は控えているが、自主的に研修に参加したい職員には事前に伝えて貰い休み希望を付け参加出来るようにしている。又、ホーム内でもスタンドアップ出来るように話し合い、より良い方向性向けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム間で情報交換等をしているが、勉強会や訪問はコロナ禍の為、行えていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に面談を行いご本人とお話の中で、お困り事や不安な事を聞き取り、ケアプランに反映、ご本人様が安心して出来る環境を提供する事を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前にホーム見学時や面談時に、ご家族様とお話する場を設け、お困り事や不安・要望などを伺いホームで出来る事を説明する事でご家族様が抱えている不安要素を軽減するよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様のホームでの生活についての不安や要望の聞き取りとアセスメントをし、状況にあったサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	快適な環境で過ごして頂ける様、職員とご本人様との信頼関係の構築の必要性を理解したうえで対応している。また、入居者様同士の関係性も快適に過ごして頂ける様配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係性の継続が図れるよう、通信や電話、面会時など生活状況を随時お伝えし、必要時は体調面等の支援の方向性など一緒に考えて頂けるよう連絡をとり、関係性の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外出はする事は難しかった。ホームではご本人様の在宅での生活をどのように過ごしていたかなどのお話を聞かせて頂くようにした。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士のし関係性が構築しやすいようテーブル席の設定を行っている。日常的に会話され、笑ったり、喧嘩したり、慰めあったり出来るよう配慮している。また、利用者様同士の関係性の構築が困難な方も快適に過ごせる様配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム退去後もご家族様からの相談や心配事の連絡を頂くこともあり、ご家族の心情を汲み取り、寄り添う対応する事を心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中で、ご本人の暮らし方の希望や意向を引き出せるように意図的に会話をしている。また、困難な方はスタッフ間でどのような方向性にすれば最も適切かの検討を日々行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の方々とのお話を意図的に行い、在宅時の生活の様子把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録に日々の様子を記録し、心身の状態変化を見逃さない様に努めている。また、一人一人の残存能力を生かした生活を継続する事が出来る様にスタッフ間で検討し対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの作成時は、スタッフ間でご本人の目標を確認し、モニタリングしている。また、ご家族の要望や必要時はDRからの指示等もケアプランに反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録に記載している。また、スタッフ間では日々の入居者様の状態の変化を話し合い、情報を共有している。現状に変化が見られた時はプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナが発症以降は感染予防の為、外出や面会規制があり、柔軟なサービスを実施する事は難しい場面もあったが、施設内で可能な限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが発症以降は、地域資源を活用する動きはほぼ行う事は出来なかった。今後は、以前の様に地域はボランティアの方々と交流を実施したり、公園の散歩などを楽しんで頂きたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の要望で輪厚三愛病院とよきクリニックをかかりつけ医として選択して頂き月に2回の訪問診療を受けている。その他、ご本人の病状に合わせて、市内の眼科・泌尿科・メンタルクリニック等の定期受診をしている。市外の受診はご家族に依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月4～5回訪問看護師が入居者様の体調管理をしてきている。入居者様の体調や変化に付いて不安な事を相談し指導してもらって、訪問診療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院に入院されている入居者様の状態を病院に確認をとりながら早期退院出来るかを確認し、ホームでの受け入れ体制を整え、退院後も連携出来る様に情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や入居者様の希望を確認しホームで出来る事や担当医と連携しながら出来る限りご希望に添えるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所のすぐ確認出来る所にマニュアルが置いてあり、いつでも見れるようにしてある。また年間の研修計画にも急変時の対応等を組み込み定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い避難方法を把握出来るように努めている。消防職員に協力してもらい備品や機材の点検をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重する支援を心掛け、干渉し過ぎず適度な距離感を保ちながら接するように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り入居者様のご希望に添える様に普段の日常会話から思いを伝えくみ取れるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせて自由に過ごして頂けるよう環境作りに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝清潔と身だしなみを整えられる様に支援、声掛けをおこなっている。また定期的に訪問理容を利用して、綺麗に出来る様に支援している。		

グッドケア・山手(かえで館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にメニューの説明を行い提供している。食事後、お膳を下げて頂いたり、食後にテーブル拭きをして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師等とも相談し、体重や本人の食事量、栄養バランスを考慮して提供を行っている。また、天気や気温に応じて水分摂取を行い、咽がある方には寒天ゼリーやトロミを付けて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方には職員が介助で行っている。また、自ら行う方も夜には義歯を預かり、義歯洗浄剤を使用して義歯の清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔をチェックして、入居者様毎の排泄パターンを把握している。それに合わせてトイレ誘導を行い、極カトイレで排泄出来るように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談して、下剤の調整を行っているが、出来るだけ自然に排便できるよう、乳製品や食物繊維を豊富に含む食品を提供したり、体操への参加を呼びかけている。また、一部の入居者様は水分提供方法を見直し、便の状態が改善されている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様が好む時間帯などを考慮し、時間や順番を決めている。特に冬場は、脱衣場を温めヒートショックに気を付けている。湯あたりしない様に声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様毎の生活リズムを把握し、身体に負担がかからないよう、休息を取って頂いたり、余暇を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイルし、変更があった際には、特記事項や申し送りにて共有している。体調に変化があった際には記録に残し、受診の際に報告出来るようにしている。また、服薬者と別な職員が必ず確認を行い、服薬ミスを防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味・嗜好を把握し、一人一人に合った生活を送って頂ける様支援している。文字の練習をしたり、クロスワードをしたりと過ごされている。		

グッドケア・山手(かえで館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はご本人様の希望にそい戸外に家族様と外出していました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使う事の大切さを理解しているが、ご本人様が持っている事により、物取れ妄想や紛失により、不穩に繋がってしまう為、必要な物や希望の物はホームで立替えか、ご家族様に頼んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りやいつでも電話が出来る環境作りを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの場所も整理整頓を心掛け、居心地のいい環境作りを作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにはいつでも過ごして頂けるよう自由に開放し食席、ソファなどで楽しく過ごしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では本人や家族と相談して使い慣れたものや好みのものを活かして、本人様が居心地の良い空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人一人に合った安全にかつ使用しやすいように全てを工夫し過ぎない様に出来ることを奪わないよう考えています。		